

## 総 評

宮内 泰介

北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会会長



毎年こうやって、いくつかの交付団体の方に報告いただいて、それ以外の交付団体や、これから応募しようとお考えの団体みなさんと情報を共有しながら意見交換をしていますが、きょうの報告会もその機能が発揮できた、たいへん嬉しく思っています。

とりわけ「ウヨロ森づくりの会」の活動は、私も以前から注目していますけれども、本格的・多角的、かつ着実に活動をすすめ、そして何より素晴らしいのは長く継続して、新しい展開を見せながらどんどん拡大して、民間による森づくりの北海道のリーダー的な存在になっていることです。今後はぜひ、他の北海道の森づくりの取り組みに対してご指導をお願いしたいと思っております。当別町青山での「四季彩の杜をつくる会」の活動も、森林組合の方を中心に、平地林での「見渡せる森づくり」を目標に掲げて、仲間が楽しみ、また訪れる人も楽しめるような活動になっていて、非常に良い試みだと思いました。気球が飛ばばもっと良かったのですが(笑)、あれは(森林施業と無関係な)つけ足しの話題というよりは、そういう楽しみも含め全体が森づくりになるんだと思うんですね。単に木を育てるだけでなく、その土地をいろんな形で活用していく。それによってまた人同士のつながりが生まれる……。

この森林・山村多面的機能発揮対策事業の目的の項には、こう書かれています。「森林の多面的機能の発揮を図り、山村地域のコミュニティを維持・活性化させる」と。

「山村地域」ってどこだ、というのはあまり考える必要はなくて、「森のある地域」と思っただけであればよいと思えますし、「コミュニティ」というのも、何も地元住民のコミュニティだけではなく、同じ森に携わる人びと同士——当別の森だったら隣接する札幌から参加されている人も多いと思えますけれど——がつながり、それによってさらに健康や福祉につながっていくというような、それ全体が「森林の多面的機能発揮」という言葉の意味だと思います。

新しい防除ネットを試みるなど、小さなことから大きな

ことまで、いろいろ工夫があると思うんですね。森っていうのは、その場所、その場所によって全然違います。どういう技術が適しているのか、施業技術だけでなく、団体をどう運営しているのかの技術も含め、それを工夫するのが大事だと思います。工夫そのものも「多面的機能」の一部じゃないか、と私は思います。

当麻町の「特定非営利活動法人もりいく団」は、たいへんユニークな活動を展開しておられます。森づくりと福祉の連携、「林福連携」とおっしゃっていましたが、とても興味深い取り組みです。福祉と森づくり、福祉と環境保全のつながりは、近年全国的にも増えて、各地で取り組みがなされていますが、「もりいく団」の活動はまたひとつ進んだ新しい形に挑戦されていると思います。社会福祉法人の職員・メンバーの方と、森づくりに特化した方、さらにそれ以外の方たちが連携しあうことに、森が貢献している、またそういった連携によって森づくりも進んでいく、そんなwin-winの関係ができているんだらうな、と感じました。

報告してくださった3つの団体は、専門的な知識も非常に豊富で、もしかしたら、交付団体の中でもかなり進んだ事例ばかりだったかも知れません。これから応募しようという団体には、「自分たちはちょっとそこまで出来ないかも」と思った方もおられるでしょう。

でも、いろいろなレベルの取り組みがあっていいと思うんです。もちろん安全対策には最大限の注意を払いながら、いろんな形で森づくりやコミュニティづくりを進めていくという機運が広がっていけば、北海道がもっとおもしろくなっていくと思えますし、そのためにこの森林・山村多面的機能発揮対策のお金を使っただけならば、地域協議会としてはこれに勝る喜びはありません。書類を作るのがけっこう面倒くさいとか、大変なところもあると思えますけれど、そこは協議会事務局がお手伝いさせていただきますので、ぜひ活用してください。貴重なお話を聞かせてくださった3団体のみならず、そして足下の悪い中ご参加いただいたみなさま、本日はどうもありがとうございました。